ご近所観光（マイクロツーリズム）プロジェクト

With/Afterコロナの観光スタイルの実践的研究

和歌山市、紀の川市、泉佐野市における新たな観光スタイルの創出

▶ プロジェクトメンバー

○林 久登（Kii-Plus価値共創研究員）
南條 青志（Kii-Plus価値共創研究員）
出島 正喜（Kii-Plus価値共創研究員）
西川 一弘（Kii-Plus）
小川 雅則（Kii-Plus）
有馬 専至（Kii-Plus）
中平 匡俊（Kii-Plus）

○はプロジェクト代表

▶ 共創相手

和歌山市・紀の川市・泉佐野市
南海電鉄グループ和歌山事務所

▶ 学内協力メンバー

中元 一惠（国際交流課）
程 奈緒子（国際交流課）
プロガノ リカルド ニコラス(国際観光学研究センター)
長友 文子（国際連携部門）
八島 雄士（観光学部）

▶ 学外協力メンバー

高崎 慎太郎（和歌山市観光課）
鶴野 尚樹（和歌山県観光振興課）
高須 英樹（和歌山県立自然博物館館長）
藤井 保夫（加太浦大護摩供顕彰会会長）
中室 昇治（泉佐野観光ボランティア協会会長）
木下 武人（泉佐野観光ボランティア協会会員）
木村 隆男（紀の川市粉河語り部）

プロジェクトの背景

昨年度、和歌山大学紀伊半島価値共創基幹Kii-Plusは、「調べる」・「出かける」・「発信する」3つの楽しみ方を提案する「ちかばめぐりーご近所観光旅ガイドー」を発行、和歌山市と連携し同誌をテキストとしたセミナーを実施した。今年度は、紀の川市・泉佐野市・南海電鉄が加わり、With/Afterコロナの新しい観光スタイルの創出をテーマに多角的な実践プログラムを実施した。

プロジェクトの目的

ご近所観光（マイクロツーリズム）を基本スタイルとし地域資源の価値を再認識する取り組みである。

重層的な地域の魅力に着眼する。また関西空港に近い3市のインバウンド戦略立案のための論点整理も行う。

プロジェクトの活動内容

1. 和歌山大学生アンケート調査の実施

3市の地域資源25カ所について若者の評価を聞いた。

2. ご近所観光モニターツアーの実施

3市共通の地域資源として「日本遺産・葛城修験」をテーマに3つのモニターツアー（①和歌山市編 ②泉佐野市編 ③紀の川市編）を実施した。

3. 重層的な地域の魅力を抽出

葛城修験を構成するいずれの地域も豊かな自然と生態系を有することに着眼し、同モニターツアーの企画は「葛城修験」に加え「それぞれ海・山・川の自然」というテーマを2つ目の魅力とした。

4. 和歌山大学留学生の参画

同モニターツアーに和歌山大学の留学生にも参加してもらい、後日意見交換会を実施した。

5. 和歌山県DMOへのヒアリングの実施

高野山・熊野古道・葛城修験などの精神文化などをふくめ紀伊半島のインバウンド観光戦略について考察した。

プロジェクトの成果

1. 若者が行きたい「ご近所」

（和歌山大学生アンケート調査結果より）

和歌山市・紀の川市・泉佐野市におけるご近所観光

スポットの候補25カ所について、高評価を得た場所（「とても行きたい」と答えた人の割合）のランキングは以下のとおりである。（n＝243）

1位　観音山フルーツパーラー（紀の川市）53.1　　（単位：%）
2位　りんくうプレミアムアウトレット（泉佐野市）40.7
3位　藤桃庵（紀の川市）40.1
4位　花山温泉（和歌山市）37.6
5位　友ヶ島（和歌山市）35.8
6位　和歌の浦（和歌山市）34.3
7位　アクアイグニス関西空港（泉佐野市）34.2
8位　関空アイスアリーナ（泉佐野市）29.2
9位　和歌山電鐵貴志駅（紀の川市）27.2
10位　四季の郷公園（和歌山市）24.7
11位　からびな（紀の川市）23.1
12位　片男波海水浴場（和歌山市）22.6
13位　紀三井寺（和歌山市）18.1
14位　墓の谷行者堂（和歌山市）14.4
14位　めっけもん広場（紀の川市）14.4
16位　鳴滝不動尊（和歌山市）14.0
17位　粉河寺（紀の川市）13.6
18位　犬鳴山七宝瀧寺（泉佐野市）13.6
19位　泉佐野漁協青空市場（泉佐野市）13.2
20位　九重雑賀のお酢の蔵（紀の川市）12.8
21位　慈眼院多宝塔/日根神社（泉佐野市）10.7
22位　葛城修験（3市共通）9.9
23位　青洲の里（紀の川市）9.5
23位　さの町場/ふるさと町屋館（泉佐野市）9.5
25位　RizuMieこーたりーな（泉佐野市）7.0

2.「ご近所観光」企画

「ご近所観光」実践編としてモニターツアーを企画実施した。ツアーのテーマは「葛城修験」と「地域の自然」の2つの地域の魅力を組み合わせ、案内人から「修験道にまつわる伝説等」と「当地の生態系・動植物などの自然等」を学ぶという内容とした。コロナ禍において感染予防対策の徹底を行い、現地集合・現地解散のツアーとした。ツアーには和歌山大学留学生4人（中国2人・ベトナム1人・マレーシア1人）とサポート役として日本人学生も参加した。

（1）加太春日神社・阿字ヶ峰行者堂と深山を訪ねる
　令和3年11月13日（土）　参加総数12人
　案内人：藤井保夫氏・高須英樹氏

（2）七宝瀧寺・行者の滝と犬鳴山渓谷を訪ねる
　令和3年11月21日（日）　参加総数18人
　案内人：中室昇治氏・木下武夫氏・高須英樹氏

（3）粉河寺と竜門橋・紀の川流域を訪ねる
　令和3年11月27日（土）　参加総数15人
　案内人：木村隆男氏・高須英樹氏

3. 留学生との意見交換会

モニターツアーに参加した4人の留学生たちとの意見交換会を実施した。

↑ツアー参加時の写真

意見交換会の写真→

【日時：令和3年12月7日（火）12時30分～14時】
【場所：和歌山大学紀伊半島価値共創基幹Kii-Labo】

日本文化を学びたいという想いを持ったアジアからの留学生であることもあり、「観光」という場面においても自国語でインフォメーションしてもらうというよりむしろ「やさしい日本語」を望んでいる。

ツアー内容への要望は体験型であること、例えば今回のような修験がテーマであれば「山伏の格好がしたかった」という意見が出た。

今回のツアーではレストラン等で食事するプログラムはなかったが、食文化の違いへの対応（ハラル対応）は、観光地を選ぶ際、重要な要素だという意見もあった。

4. 紀伊半島のインバウンド戦略

海外旅行ガイド「Lonely Planet Japan 2017」では「Kansai」に「Kii Peninsula」が位置し、「Koyasan」「kumano kodo」の案内は充実している。特に「Koyasan」はJapan'sTop25の7位に登場する。欧米豪の顧客をメインターゲットとする高野山、熊野エリアにとっては有力な武器となる。一方、関空から近い和歌山市や紀の川市はアジアからのインバウンドをメインターゲットとしている。

しかし「Kii Peninsula」と「紀伊半島」は同じ場所であるという発想をもって、顧客ターゲットありきで施策立案する前に今一度、「紀伊半島の重層的な魅力は何か」を整理することも有意義である。

プロジェクトに関するお問い合わせ
価値共創オフィス
E-mail : region@ml.wakayama-u.ac.jp
URL : http://www.wakayama-u.ac.jp/kii-plus/projects/microtourism